

日本看護歴史学会 会報

日本看護歴史学会
第6号
1989年10月1日

看護歴史研究確立への模索と 研究者の資質の向上

亀山 美知子

去る八月一九・二〇日の両日に開催された第三回日本看護歴史学会大会の参加者数は、これまでの大会をやや下回ったものの、今までは一味違った様相をみせていました。その理由と考えられるのは、会員相互の交流が深まったことで分科会の参加などがより円滑になったこと、大会参加の目的がより明確になったことなどがあげられると思います。本会が重視してきた分科会活動が、わずかずつ定着してきたこともその要因であると思えます。

総会の場で申し上げましたが、今年度の活動方針として、本会は研究者としての資質の向上、研究的態度の育成に努めることを打ち

出しております。これは、看護史の研究対象が非常に広範であることから、ともすれば研究目的が不明瞭になりやすくなるという危険性をはらんでいるからともいえます。その反面、この分野の研究報告数は、他の分野よりも少ないにもかかわらず、資料集など先行研究の検索を容易にするだけの設備が不十分なため、自分の研究テーマに関する研究史を踏まえるのが困難なまま、研究に取り組むといった、基本的な問題も横たわっているように思えます。

日本看護歴史学会としては、これらの現状に鑑み、会員相互の指導体制の確立をはかること、『日本看護歴史学会誌』の充実を目指す

し、掲載記事等の十分な検討と、内容に責任のもてるだけの質の向上を目指し、学会誌の編集委員会の補強、コメントーター制の確立を行なってゆきたいと考えます。

看護歴史研究の確立と質の向上は取組まねばならない私たちの共通の課題ですが、決して権威主義的体質には陥らないように常に自戒しなければならぬと思います。また、会員による相互の指導体制の確立のためには、研究等に対する批判を真摯に受け入れられる体質も、今後、より望まれるといえます。私たちが完成した研究の大家などではなく、お互いに開拓者なのですから。

歴史、歴史研究について

歴史と歴史研究には境目というものがありません。叙述される歴史は、そのまま歴史研究でもあるからです。歴史とは、よくいわれるように、単に事実を書き連ねるだけの「生じた歴史」をいうのではなく、歴史存在でもある自分の目を通して見た歴史を叙述する「書かれたる歴史」が目指されるべきものです。そのためには、すでに確立されている歴史観も含め、個々の歴史を視る目（＝歴史

観）を養う必要があります。

だからといって、事実を無視することは許されません。事実こそ人間が最も把握しやすい真実だからであり、ある事象の生じた背景と、その及ぼした影響について因果関係を明確にする作業は歴史研究にとって基本的かつ重要な意味をもっています。そのためには客観的情報を十分得ることが求められます。史料は、その事象に限ってのみ集められるべきではなく、その事象に関連するものについては全て渉猟されねばなりません。収集すべき史料は、より蓋然性の高い根本史料であることが望まれます。しかし、歴史研究は批判することからはじまるといわれるように、集めた史料には十分な批判を行なう必要があります。

こうした史料を基盤として事実を鮮明にしたとき、はじめて研究者の主観（といっても独断や偏見では困ります）に基いて「生じた歴史」の意味を読みとる作業が可能になるといえます。

何の研究でも共通して言えることですが、労なくしては良い研究はできないといえます。ただし、史料に固執するあまり「史料の囚人」という弊害は避けたいものです。

第三回日本看護歴史学会大会の経過報告

第三回大会の

開催経過報告

八月一九日(土)

講演「医療と看護婦・中国の場合」

神戸大学教授 寛久美子氏

会員による研究発表

司会 大平政子氏

「看護博物館の分類と特徴」

飯島美代子氏

日本看護歴史学会総会(別項参照)

懇親会

八月二〇日(日)

分科会開催(別項参照)

放談会「私のみた戦後の

看護教育改革」

司会 ライダー島崎玲子氏

五十嵐節氏

発言者

元日本看護協会会長(厚生省)

小林富美栄氏

元東京都看護協会会長(東一)

吉田浪子氏

当時東京看護教育模範学院生徒

氏家幸子氏

一九八八年度

事務局報告

山崎 雅 代

一九八八年度の本会の事業としては、(1)近代看護婦百年記念事業の実施(別項参照)、(2)学会誌二号を発刊、(3)会報四・五号を発刊、(4)幹事会の開催、①一九八八年八月二〇日(日)、②一九八九年一月七日(土)。会報にはできるだけいろいろなことを会員の皆様にお知らせするという機能をもっており、ぜひすみずみまで目を通していただきたいと思えます。

入会者は一九八七年一六七名、一九八八年四〇名、一九八九年八月二〇日現在八名、脱会者一名あり、現在会員総数二一四名となっております。

住所変更の届けがいろいろな形でされており、郵便物が返送されて来る場合もあります。今後住所等の変更は事務局へお願い致します。

近代的看護婦発祥

百年記念事業報告

亀山 美知子

一九八八年が日本における近代的看護婦の発祥から百年目にあたることから、記念事業を行なうことが決定され「看護婦百年のあゆみ写真展」の開催とオリジナルレカの販売が行なわれました。

写真展開催に対しては本会から一〇万円、京都府看護協会から協力金二〇万円のほか、会員五五名、非会員(個人・団体・企業等)八五名の寄附金の総計約一四五万円によって運営され、京都市、東京都、名古屋市、浜田市、福井市、岡山市、近江八幡市で開催されました。開催にあたっては各地方自治体および看護協会の協賛または後援を受けることができました。多くのマスメディアの取材によって、広く一般市民に看護婦の歴史を知ってもらうことができました。経費の残額はアルバムの作製に使用することが総会の場で了承されましたので、写真の再度の使用について御協力を呼びかけています。

分科会報告

分科会担当
高橋 みや子

分科会活動の趣旨に基いて運営される大会は平素の学習・研究の成果を話題提供し、研究領域の開発、研究方法の検討、史料の発掘、文献等の情報交換など幅広い意見交換や交流をはかる場となります。

第三回大会では、二十四分科会のうち、話題提供の申込みがあった六分科会を開きました。第一回大会では顔合わせ、第二回大会では幹事等の主導であった事を思うと、長足の進歩といえましょう。

最初、話題提供者が全体会で発表し、その後、各分科会に別れました。

一、文学・映像にみる看護 六名参加。小山千加代氏の「病草紙にみる(病)と(病人)のとらえ方」の報告後、医療と加持祈祷、史料・文献について意見交換。「古事記にみる看護・医療」「原爆と看護」等、各自の研究テーマを紹介し合う。

二、ナイチンゲール 六名参加。上岡澄子氏の「わが国におけるナイチンゲールの受容」の報告後、文献に基づき、明治期の時代背景とナイチンゲール紹介の変化、特

